

# 研究成果の紹介

## アサクラサンショウの低樹高栽培には開心形が優れている

アサクラサンショウ（写真1）は県北部が発祥とされ、「但馬ブランド」として振興が図られているが、その生産者は高齢者が多く、収量を確保しつつ作業性を向上させ、省力化を図る必要がある。そこで、樹高を2～2.5m程度に抑える低樹高栽培に適した樹形を検討した結果、開心形が最も優れる樹形であった。

### 内容

2013年2月、供試樹（9年生）を試験区ごとの樹形になるよう、主枝を誘引、整枝せん定し、試験樹を設定した（写真2）。さらにこれらの試験樹を2014年2月に整枝せん定した。慣行区は枝の間引きのみのせん定とし、誘引は行わなかった。5月28日に果実を収穫し作業時間を測定するとともに、収量及び果実品質を調査した。果実品質は無作為に選んだ各樹10房の房重、粒数と粒重を測定した。その結果、慣行樹と両樹形間に1樹当たりの収量差はなかったが、主幹形より開心形の方が多収となった。果房も開心形が大きくなり、粒数、粒重ともに慣行樹より多くなった。また、収

穫果実1kg当たりの作業時間も開心形が最も短く、効率的な収穫作業ができた（表1）。

この結果を基に算出した低樹高栽培の収益性は表2のとおりであり、慣行栽培に比べ収量、作業時間の改善で収益性は46%増と、大きく向上すると見込まれる。

### 今後の方針

これらの成果は普及センターを通じて栽培指針、栽培暦に取り入れてもらうとともに、営農指導員、部会員対象の講習会を実施し、技術の習得をめざす。

真野 隆司（農産園芸部）

（問い合わせ先 電話：0790-47-2424）



写真1 アサクラサンショウ果実

表1 アサクラサンショウの樹形が収量、果実品質と作業性に及ぼす影響

試験区	収量 (kg/樹)	房重 (g/房)	粒数 (個/房)	粒重 (g/房)	作業時間 (分/kg)
慣行	2.20 ab	2.19 b	44.2 b	1.85 b	14.6 b
主幹形	1.58 b	3.09 ab	61.1 a	2.63 ab	11.8 ab
開心形	2.67 a	3.47 a	68.2 a	3.02 a	9.8 a

作業時間：果実1kg当たりの収穫に要する時間

アルファベットの異符号間には5%水準で有意(Tukey法)

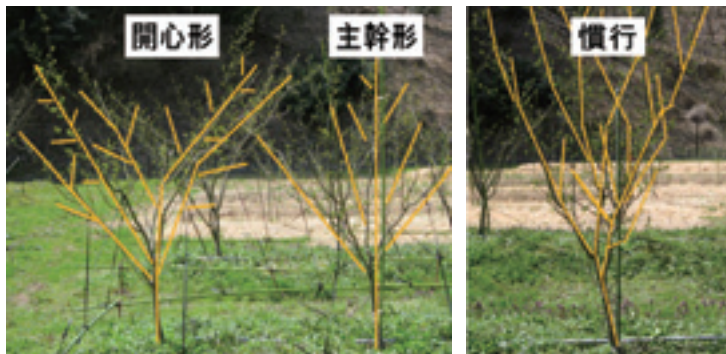


写真2 低樹高（開心形、主幹形）と慣行栽培の樹形

表2 低樹高栽培の収益性(10a)

栽培法	粗収益	経営費	所得
	(千円)		
低樹高(開心)	1,092	351	741
慣行	932	426	506

経営費：人件費を6千円/日(6時間)で、その他経費は20万円で試算